

自転車競技（ロードレース）テストイベントで熱中症対策を実施しました。

塩と暮らしを結ぶ運動では、令和元年7月21日（日）に開催された「自転車競技（ロードレース）テストイベント」（主催：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）において、熱中症対策を実施しました。

このイベントは、2020年の東京オリンピックに向けて、各国代表チーム約120名が参加したテストレースで、全長179kmにもなるコースは、東京都（スタート：府中市）、神奈川県、山梨県、静岡県（ゴール：小山町）の1都3県にまたがっています。

このイベントで、コースの一部に当たる東京都町田市（塩と暮らしを結ぶ運動協力団体）では、当日の運営を行うコースサポーター（市民ボランティア）の皆さまや観戦者の方々に、熱中症予防を呼びかけました。

まず、事前に開催されたコースサポーター説明会では、サポーターの皆さまに、活動時の熱中症への注意喚起を行いました。

そして当日は、コースサポーターの皆さまに、ネッククーラーや、塩と暮らしを結ぶ運動の塩飴、ウチワをお配りし、熱中症予防に活用いただきました。また塩飴やウチワは、観戦者の方々にもお配りしました。

当日は蒸し暑い天候でしたが、コースサポーターの皆さまには、熱中症対策グッズを活用して、元気に活動していただきました。

2020年の東京オリンピックでは、自転車競技（ロードレース）は2日間にわたっての開催が予定されています。今回の経験が、オリンピック本番における、より効果的な熱中症対策につながればと思います。

